



さざんか

かとう学園 宗像市立河東中学校
学校通信第33号(R5. 10. 20)

陸上部男女再び快挙。筑前地区駅伝大会でもアベック優勝!!

秋晴れの10月18日(水)、博多の森陸上競技場周辺周回コースにおいて、筑前地区中学校駅伝競走大会が開催されました。

本校陸上部は、圧倒的な強さで終始先頭を走り他校駅伝チームを振り切り、男女ともに優勝を飾りました。

なお、福岡県大会は、11月11日(土)北九州市の本城公園周回コースにて行われます。引き続きみんなで応援しましょう。

地域の方から、9年生男女4人の善行の連絡を受けました

クリエイトにお住いの地域の方が来校され、教頭先生にお礼を述べて帰られました。内容は、10月17日(火)の夕方、その方のお子さんが自転車で転倒してけがをされたそうです。そこへ通りかかった本校生徒9年生の石本岐有さん、小島美沙希さん、上野幹太さん、河野岳大さんの4人が助けてくれたということです。9年生は、本人が持っていた携帯を借りて保護者へ連絡し、迎えに来てもらうようにしました。その間、温かい声掛けをしたそうです。保護者到着後、病院に連れて行く間に自転車を自宅まで運んでくれたそうです。たいへん感謝されました。

授業研修の風景

今週は、ベテラン勢の公開授業が続きました。いずれも、永年の経験から出てくる授業のうまさが光りました。若い先生への伝承を願います。

川口先生(社会)

10月19日(木)9年6組で行われた川口先生による社会科の公開授業。裁判員裁判を疑似体験することで裁判官の立場で司法の在り方を考える学習でした。

「子豚によるオオカミ殺人事件」を題材に、子豚の行為が、正当防衛か過剰防衛か殺人罪なのかを裁判員として判断します。生徒は、学習内容から根拠を組み立てます。個人での判断の段階では3つに判決は分かれていました。しかし、5人グループで判決の合意を形成する段階ではほぼクラス全体では判断が一致します。そこに川口先生のち密な計算が見られる授業でした。



宮崎先生(社会)

10月19日(木)8年3組で行われた宮崎先生による社会科の公開授業。プレゼンスライドだけでも50枚を超える資料提示で内容が豊富な授業でした。



今の日本が抱える問題は山積しています。自然災害、少子高齢化、エネルギーや食料自給率の問題。それらの問題をピラミッドランキングで最重要課題を判断し、グループで根拠をもって自分の考えを説明していくという授業でした。その前提として、宮崎先生による膨大な資料提示が授業の内容を深めることにつながっていました。

壺（つぼ）に入れる大きな石と小さな石 ～ 時間の使い方を考える理科室での実験より ～

秋が深まり、体育館横のけやきの木も美しいセピア色に色づいてきています。河東中生のみなさんは、勉強に部活動にクラブチームにあるいは趣味の時間に有意義な時間を過ごし、実りの秋を実感してほしいと思います。

今のみなさんにとって大切なのは、時間の使い方ではないでしょうか。限られた時間をどう使うかを考え学び習慣にすることは、中学時代身に付けておきたい重要なことです。昔から、“Time is money.” タイムマネジメント、時間管理術の重要性は様々に語られてきました。今回、そのことを考えるヒントになる話を一つ紹介します。

壺（つぼ）に入れる大きな石と小さな石の話

ある中学校での理科室での授業の様子です。ちょっとのぞいてみましょう。

理科の先生がこう話しています。「さあ、クイズの時間です。」そう言って、大きな壺（つぼ）を取り出して、テーブルの上に置きました。その壺の中に先生は一つ一つ大きな石を入れていきました。壺の口に石が見えるまで石を詰めて、先生は生徒に聞きました。

「この壺の中は一杯でしょうか？」

教室中の生徒が一「はい」と答えました。

「本当でしょうか？」そう言いながら先生は、テーブルの下からバケツ一杯の砂利（じやり、小さな石）を取り出しました。その砂利をバケツから壺の中に少しずつ流し込みました。壺を揺すりながら、大きい石と石の間を砂利で埋めていきました。そして、もう一度、生徒に聞きました。「この壺は、今度は満杯でしょうか？」

生徒は、戸惑います。少しざわつき始めたところで、一人の生徒が声を出します。

「たぶん、違うんじゃない？ まだ、何か入りそうだよ。」

先生は、「そうです」と笑いながら、またテーブルの下から別のバケツを持ち上げます。このバケツには、小さな粒の砂が入っていました。その砂を大きな石と砂利のすき間に流し込み始めました。壺がいっぱいになった後、みんなに三度目の質問を投げます。

「今度こそ、この壺はいっぱいになったのでしょうか？」

生徒は、声をそろえて答えました。「いいえ、まだ入りそうです」

先生は、大きな水差しを取り出し、壺の縁までなみなみと水を注ぎました。そして、最後の質問をしました。

「今、この壺の中は満たされています。そこで、この壺を“時間”の壺と考えてください。先生がこれから何を言いたいかわかった人はいますか？」

すると一人の生徒が手を挙げました。

「大きな石で一杯になったように見える壺であっても、小さな石や砂、そして水をすき間に入れることができます。だから、これを時間に置き換えると、壺の中には24時間入ります。大きな石は、睡眠時間や食事、トイレやおふろの時間をさします。小さな石は、学校にいる時間や部活動・クラブの時間です。その中に砂である家庭学習の時間や塾・読書・趣味の時間を入れます。そして空いた時間を水のようにゲームやスマホなどの自由時間を流し込んでいくということではないでしょうか。」

先生は笑顔で応えます。

「そうですね。しかし、実はこの実験でみなさんによく見て考えてほしいことは、もう一つ別なところにあります。大切なのは、大きな石から小さな石、さらに砂から水と入れた順番なんです。難しい言い方をすると“優先順位”ということです。同じ量だからと言って、逆の順番に入れたらどうなるでしょうか？—そうです。大きな石どころか小さな石でさえ入らなくなります。つまり、水や砂を優先して入れると砂利や大きな石が入らなくなります。睡眠時間や食事の時間を削るようなことにつながります。そこに、時間をうまく使うコツが生まれてきます。今日は、そのことを理解し実生活で役立ててほしいための実験をしました。」

